

平成28年度

# 議会行政調査報告

調査日：平成29年2月8日（水）～9日（木）

調査地：（1）秋田県五城目町

（2）道の駅視察

- |          |          |
|----------|----------|
| ・道の駅五城目  | ・道の駅ことおか |
| ・道の駅しょうわ | ・道の駅てんのう |
| ・道の駅あきた港 |          |

調査内容：

- 人口減・空家活用・企業誘致対策について
- 地域活性化支援センターについて
- シェアビレッジについて

説明者：五城目町まちづくり課

課長 澤田石氏、係長 柴田氏

国見町議会

東海林 一 樹 議長	・ ・ ・ ・ ・	2
八 島 博 正 議員	・ ・ ・ ・ ・	3
浅 野 富 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	4
阿 部 泰 藏 議員	・ ・ ・ ・ ・	5
松 浦 常 雄 議員	・ ・ ・ ・ ・	6
渡 辺 勝 弘 議員	・ ・ ・ ・ ・	7
村 上 正 勝 議員	・ ・ ・ ・ ・	8
佐 藤 定 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	9
村 上 一 議員	・ ・ ・ ・ ・	10
松 浦 和 子 議員	・ ・ ・ ・ ・	11～12

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月20日

国見町議会議員 東海林一樹

## 【調査内容・感想】

初日、五城目町役場会議室で澤田石まちづくり課長の挨拶の後、柴田係長より企業誘致の現状の説明を受けた。

企業誘致で雇用の創出を図り、人口減少に歯止めをかけるのがねらいたが、大手企業の進出の見通しはなかなか立たないので、視点を変え五城目町の身の丈に合った雇用創出のあり方を考えることにした。新たな事業の場として進出してもらえる小規模な事業者や起業家の誘致に転換した。その拠点としたのが、13年3月に閉校になった馬場目小学校の教室を改装し13年10月に開設した「地域活性化支援センター」であり、進出企業に貸し事務所として貸し出すことにした。

当初3社からスタートしたが、徐々に進出企業が増え、現在は13社になっており、五城目に移住した人も27人になった。また、新規採用も12人で内地元からの採用は10人あり、少しずつではあるが成果が出ている。100人の雇用が見込める企業1社より一人の雇用でも生まれる企業100社を誘致する方針で今後とも進めていくとのことだった。

いくつかの質疑応答があった後閉会とし、係長の案内で活性化支援センターを視察した。築10数年しか経っていない校舎で進出企業の社員が働いている様子を視察した。

その後道の駅五城目を視察して、地元にある宿泊所「小倉温泉」に到着した。

2日目、午前9時に道の駅ことおかを視察した。時間が早かったこともありレストランはまだ開いておらず人もまばらだった。

次に道の駅しょうわを視察。生花を売り物にする珍しいタイプの道の駅で、大きな温室も隣接している。

11時に到着した道の駅てんのうは規模も大きく、売り物の品ぞろえも豊富で展望タワーまであり、エレベーターで上り観覧料は無料で人の入りも多かった。

最後は道の駅あきた港を視察した。ここにも展望タワーがあり、高さはてんのうの倍の100mもありここも展望料は無料、売り物の品ぞろえも豊富だった。

視察後の感想としては、国見では売り物の品ぞろえと宿泊施設をどう利用するかなどが課題だなと感じた。

以上

## 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月15日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

### 【調査内容】

- 8日 AM7:00 国見町役場出発 秋田市で昼食後、五城目町着  
PM1:30~4:00 五城目町役場議会会議室で研修  
PM4:00~5:00 道の駅五城目見学  
PM5:00 五城目町小倉温泉泊
- 9日 AM8:30 小倉温泉出発  
道の駅ことおか、しょうわ、てんのう、あきた港の  
4か所を視察した。

### 【感想】

五城目町の研修では、姉妹都市が東京都千代田区でその紹介から地域おこし協力隊員を募集、東大生2人を含み3人の大学生が着住。その内2人が結婚し移住して町に住んでいる。この3人を中心にまちづくりに新しい発想で取り組んでいるという。

昭和35年に20,025人の人口で、平成27年には9,481人まで減少、秋田県内で減少率が3番目に高い。高齢化率も41.8%とのことである。

そうした現況の中で新しい発想での町おこしが必要であり、地域おこし協力隊を中心に、廃校の小学校を利用して地域活性化センターとして活用し、借事務所として13社が入所している。

5つの道の駅は、大変勉強になった。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月15日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

## 【調査内容・感想】

- 1日目 : 人口減、廃校の活用、企業誘致対策、シェアビレッジ町村＝空き家活用  
地域活性化支援センター、道の駅五城目
- 2日目 : 道の駅ことおか、道の駅しょうわ、道の駅てんのう、道の駅あきた港

行政調査に先立ち町議会を表敬訪問した。小林正志議長が出迎えてくれた。「昭和の大合併」時と比べて人口は半減、高齢化率は40%を超えていること等があいさつの中で話された。議場も案内してもらったが、議員定数減により空いている議席があった。

14時から行政調査を行った。説明はまちづくり課の柴田様他によって進められた。主眼は人口減に向き合う中で、まちづくりをどのように進めるかというところにある。企業誘致、統廃合による小学校の閉校、そして移住促進、これらの事についてはどこの町でも共通する課題である。五城目町ではこれらを一つ一つの課題と見るのではなく、一体のものとして捉えすべてを「仕事づくり」の視点で考えようとしていた。

この視点に落ち着くにはそれなりの経過があった。企業誘致の場合どうしても大企業、大きな工場を目指すのが、人口減少の町で「従業員をどのように確保するのですか」の一言で断念するほかはない。高齢化率も2015年では48.1%県内有数の高さである。そこで視点を変えたのは1社で100人の雇用を生み出すより、1人の雇用でも100社が来れば同じ人数の雇用が生まれる、「起業」を促進し、会社が入るのは空き家となった小学校、そして近くの企業に目を配るという事で現在は小学校に13社が入居し企業活動を行っている。デザイン会社による商品パッケージのリニューアルなどの連携も生まれている。「ご縁」を大事にすることが秘訣であるが、「金を出してきてくれた人はもっと金の高い方に行く」との言葉はなるほどと思わせる一言であった。

道の駅の視察は説明者がいない中での視察である。5か所の道の駅を尋ねたが、それぞれ特徴があることがわかる。『五城目』は、レストランと農産物の直売所であり、商品の陳列は出荷者ごとに箱があることから、同じ商品も並んでいる。地元の人が生産者を選んで買う場合は都合がよいが一過性の消費者には感心しない。『ことおか』では商品案内札が立ててあり購入する場合非常に参考になる。陳列は品種ごと。『しょうわ』は、花卉が主であり他県のブースもあった。併設の広場があるようなので雪のない時期に訪れるのが得。『てんのう』の陳列は同品種、複数の生産者ごととなり手芸品もあった。追加で立ち寄った『あきた港』は、都市部の道の駅という事で県内の主要産品が並べてあった。雪のない時期には観光バスが多く止まるのではないかと思われるが、尋ねたのが冬という事もありレストランの客も少なめである。メニューによっては副惣菜がバイキング方式で食べられることになっており、珍しくもあり試行錯誤の跡がわかるようでもある。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月17日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 阿部泰藏

## 【調査内容】

### 1. 五城目町

明治29年18日 町制をしき五十目村から五城目町と改名。昭和30年3月31日、昭和の合併により5カ町村による新五城目町発足。

秋田県五城目町は、秋田県中央に位置し、人口は9,706人、面積は214.9平方キロで、本町の約6倍である。町の約8割は山林で、町の産業は、農林業と職人の町として発展してきた。また、町の中央で500年も続く朝市は、有名である。

五城目町の人口は、昭和35年には20,025人だったが、平成27年には9,481人まで人口減少と高齢化率が43.9%に達しています。さらに、2020年（平成52年）の人口が4,994人、高齢化が51%に推計されます。

2011年五城目町では、人口減少の歯止めとして、まちづくり課に企業誘致係りを新設し、姉妹都市の千代田区や生産工場に回り企業誘致活動したが、全く進まなかった。

2012年企業誘致について、専門家とともに調査結果を出した。①誘致しても働ける人が少ない。②土地が少ない。地理的に不利。などから、大規模な企業誘致は、難しい結果となった。

### 2. 地域活性化センター

五城目町の馬場目小学校は、2000年に新築したが、想定以上に少子化が進んだため、2013年に廃校になった。

まちづくり課は、2014年に、廃校を活用し、企業や生産工場の誘致から、サテライトオフィスとして切り替え、現在では19業者が入居している。

また、センターでは、14年から地域おこし協力隊員を4名採用し、センターを移住、定住の促進や起業支援、6次化の取り組み、空き家の利活用促進など、町の活性化の拠点として活用している。

## 【感想】

秋田県五城目町の面積は、国見町の約6倍もあり、80%は山林である。森林木材が国内建築材として、売れた時代は経済的に発展したと思う。

五城目町の20,000人あった人口は約50年間で、9,481人まで減少した。人口減少の歯止めは、地域活性化支援センターで試行錯誤の取組が展開されている。

活性化支援センターを視察したが、センター内の活性化のようすは感じられず、改めて町の活性化につながることを期待する。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

## 【調査内容】

### 五城目町の現状とこれまでの取り組み・成果

五城目町は秋田県内でも3番目という人口減少率の高い町であることに危機感を抱き、町の発展を図る方法を探ろうとして、コンサルタント会社に町の現状調査を依頼した。

その結果、首都圏から遠く人口減少が著しい現状では、大きな企業の誘致はほとんど不可能であることを知り、身の丈に合った企業の誘致やまちづくりをすることが重要であるとの結論に達した。

(1) 企業誘致については、100人の従業員を抱える企業から、1人の企業家を100人集める方へ方向を転換した。首都の千代田区と姉妹都市の協定を結ぶなど、他の地域との交流を重視し、交流人口を増やすことによって、町外の人に町の良さを知ってもらい、企業の誘致や定住者の増加を図ろうとしている。

(2) 企業誘致の受け皿として、築後10年で廃校になった木造の小学校の校舎を「地域活性化支援センター」として小規模の企業者に貸して利用している。現在13社が利用している。

「地域活性化支援センター」は、地域おこし協力隊の活動の拠点にもなっており、町の特産品を使った6次化産業に取り組んでいる。

(3) 「シェアビレッジ」は、空き家になっている古民家を再生し、会費を払って村民になれば、都市部の人が好きなきときに畑仕事などに参加できる制度である。空き家対策の一例である。

## 【感想】

①企業誘致の方法として、大きな企業を誘致するよりも小さな企業を数多く誘致するという考えが参考になると思った。その際、場所の賃料を安くするなど利用者にとって何らかのメリットがあるように工夫することが必要である。

②「地域活性化支援センター」は、廃校活用の成功事例。町の活性化に役立つものと思う。

③古民家を利用した「シェアビレッジ」は、五城目町が企画から実施まで時間をかけて実施できるようになったもので、首都圏など都市部との人の交流で可能になった。魅力的な古民家があった。我が町で実施することは容易ではない。

④その他として、4つの「道の駅」を視察した。

- ・道の駅五城目（直売所では、6次化製品の木イチゴのジャムやお菓子を販売。）
- ・道の駅ことおか（直売施設の隣に土笛作りなどができる「体験学習館」がある。）
- ・道の駅しょうわ（直売所は農産物のほか八郎潟白魚の佃煮あり、品数が多い。また、世界の熱帯植物や、多くの四季の花が観賞できる温室が特徴）
- ・道の駅てんのう（市のシンボルとなっているタワーや、ピクニック広場、バーベキュー、温泉保養施設がある。直売所の商品の種類、品数も多い。）

「あつかしの郷」も特産物に力を入れてほしい。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月15日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡邊勝弘

## 【調査内容】

人口9,481人、面積214.94km<sup>2</sup>、8割が山林で林業が中心的産業である。五城目町議会小林議長の挨拶を受けてから、まちづくり課澤田石課長、柴田係長から五城目町の人口減の現況を聞いた。今後の対策として、企業誘致を目標に進める上で、専門家と共に町の可能性を調査して大規模製造業の誘致は不可能であることの現状を突きつけられた。それを打開するために100人の企業1社を求めるより、1人の企業を100社に来てもらうように方向転換を考えた。その上で小学校の廃校を利用して、「貸事務所」レンタルオフィスとして提案をし、臨時交付金(2000万)を活用して見事に復活を成し遂げた。

## 【感想】

今回の視察場所である、五城目町は人口数もほぼ同じであり、尚且つ人口減少についてどのような対策を講じているのか、そして廃校を活用した成功例を見させてもらい、当町においても可能性があるのではないかと思われた。

直ぐに人口増加につながることは困難ではあるが、田舎であっても魅力的なまちづくりをして、交流人口を増やすことを目指すべきではないかと考える。

道の駅は、5箇所を視察させていただき、各道の駅に特徴が感じられた。時間帯にもよるが、直売所での野菜不足が見られた場所もあった。また、道の駅しょうわは、温室ハウスが花で飾ってあり、インパクトを与える道の駅だった。その中でも展望台も備えて情報コーナーも充実していた、あきた港がすばらしい。

最後に、お忙しい中、説明対応してくださった、澤田石課長、柴田係長に感謝を申し上げて報告とする。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上正勝

## 【視察内容・感想】

始めに議長より、役場庁舎内において町の概要や役場内の設備などの説明を受け、議場や議員控室等を案内していただいた。林業、職人の町だとうなずけるようなテーブル等の設備であった。

その後、まちづくり課長、係長より町の概況の説明を受け、人口は国見町と同じくらいだが、面積は5倍程度であり8割が山林。昭和40年頃から見ると半分ほどの人口と聞き、雪も多く大変な町との印象を受けたが、町のやる気を起こすような地域おこし協力隊3名(東京大学大学院卒業、慶應義塾大学卒業、立教大学法学部卒業)が町の魅力の発見、発信、創造にチャレンジして新しい発想で雇用創出や移住、定住促進の仕事に取り組んでおられるようだった。

### (企業誘致・移住促進)

企業誘致の取り組みとしては、廃校を利用し各教室1室2、3万円で事務所として貸出しているようで、行政ではなかなか思いつかないような考え方で感心した。町で法人登記した5社、そのほか13社が参入していた。

また、地域おこし協力隊と入居企業の連携で、平成27年度から27名が移住。希望者との縁を作っていけば住む人が増えるとの考えでの取り組みだった。

町の支援制度は、

- ① 空き家利用：200万円以下のローンを無利子。
- ② 創業間もない企業を支援
- ③ 地域活性化支援センターオフィスを1か月2万円での貸出
- ④ 新たに農業を始めようとする人への補助金の交付制度を充実

があり、また、東京都千代田区との交流事務所を開設しており、その交流により東京からの有益な情報を入手しやすい状況を作っているものと思った。

雪が多く不便な所でも人材を育成しやる気のある人を育てていけば町も変わるという事がわかった。

国見町は国道4号、東北本線、インターチェンジなどがあり五城目町と比べれば大変便利である。都市部の地域とも交流を図り町の魅力をどんどん発信して行くことも大切だと感じた。

### (道の駅視察)

2月8日 道の駅五城目視察では冬の時期で品物もお客も少なかった。

2月9日 道の駅4か所の視察を行った。道の駅てんのうについては、海に近い道の駅なので少し魚類が置いてあったが、冬のためかお客が少ないためか、冷凍の魚しか置いていないのは魅力が少ないようにも感じた。 以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月13日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

## 【調査・視察内容】

### 1. 五城目町

#### ○人口減・空家対策・企業誘致対策

- ・町の人口は減り続け、現在9481人。高齢化率も40%を超え県内3番目。
- ・全戸数の約1割(300戸)が空き家で、活用はなかなか難しい状況である。
- ・町には人がいない、土地がない、地理が不向きなど大企業の企業誘致は無理だということがわかった。100人の雇用より、交流人口を増やすこと。

#### ○地域活性化支援センター

- ・13年3月に閉校となった小学校を活用して整備した施設。雇用創出と地域交流の拠点となっている。1室月額2万円、19事業者が入居している。

#### ○シェアビレッジ

- ・地域おこし協力隊らの市民主導により古民家を再生、交流の場とした。年貢3千円で宿泊、畑仕事、イベント等に参加できる。村民1700人。

### 2. 道の駅視察

#### ○道の駅五城目・道の駅ことおか

- ・道の駅としては2つとも規模が小さいと思った。店員の挨拶が良かった。

#### ○道の駅しょうわ

- ・南国の花を集めたイベントを開催中。興味のある人には有り難いだろう。

#### ○道の駅てんのう

- ・海産物の品揃えが多いと感じた。駅内に展望台(高さ60m、無料)あり。

#### ○道の駅あきた港

- ・売り場面積が広く品揃えも豊富(特に日本酒)。展望台からの眺望良好。

## 【感想】

- 五城目町は人口減少・高齢化が進んでいるが、身の丈に合った対策が功を奏している。量よりも質、お金よりも「ご縁・つながり」が大切と感じた。

- 道の駅での買い物は、やはりその土地の特産物に手が伸びてしまう。

「あつかしの郷」も特産物に力を入れてほしい。

以上

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

## 【視察内容】

①五城目町は秋田市より北30kmに位置し、農業と林業の農山村で人口もほぼ国見町と同じだが、面積は国見町の5.7倍ほどある。8割が森林であるが、農業・林業の衰退により1960年には2万人いた人口が現在では9800人にまで減少した。高齢化率も40%以上で人口減少と高齢化に悩み、定住促進と雇用の場の確保が課題である。閉校となった馬場目小学校の校舎を整備し地域活性化支援センターを立ち上げ、起業や事業支援拠点として活用されている。現在、13の事業体が活動している。また東京都千代田区と姉妹都市であり、千代田区の企業からのアプローチもあった。今後は、『100人雇用の企業よりも1人雇用の企業を100社』『1回に1万人訪れる町より100人が100回訪れる町』を目指している。地域おこし協力隊による木いちごのジャムやビールの開発に成功し、6次産業の活性化にもつながっている。また、若手起業家や地域おこし協力隊が《シェアヴィレッジプロジェクト》を立ち上げ、空き家の古民家を「シェアヴィレッジ町村」として再生し、若者の交流の場となっている。年間3000円の「年貢」を支払えば誰でも「村民」になれる。村民になれば畑仕事をしたり宿泊もでき、村で行うさまざまなイベントに参加できる仕組みだ。現在村民は1700人以上となっていて、前年度は東京から家族で移住してきた例もある。14年度からの取り組みで、五城目町への移住者は地域おこし協力隊を含め27人におり、そのほとんどが事業を起こしている20代から30代の若者である。彼らは限りないエネルギーを持っており、過疎の町を変える大きな力になっている。

②「道の駅五条目」：夕方視察の為か地元産の野菜も少なく、特産品である木いちごの加工品があったが目玉となる商品がなかった。

「道の駅ことおか」：品数は多くあったが地元産は少なく、秋田物産品を多く扱っていた。道の駅前には体験学習物産館（縄文の土笛づくり）があった。

「道の駅しょうわ」：温室が設置されており現在は「真冬の花の祭典」のイベントが行われていた。ラン販売が中心で、その他は多種多様な品が販売されていた。

「道の駅てんのう」：広大な敷地に整備された公園や展望台（天王スカイタワー59.8）があり、秋田の観光物産店もあった。

## 【感想】

五城目町は現在農業者も少なく、林業も衰退し観光地も少ない。冬は4カ月も雪に埋もれる町である。そんな中今取り組みは苦肉の策であった。しかし現在は若者中心に事業を推進できる町の方向性ができた。今後は、移住者が長期的に定住できる環境づくりが大切だと思う。「国見町はもも中心の果樹地帯であり利便性にも富む」と話の話があった。今回の視察研修で得たヒントを大いに活かし、これからのまちづくりをしていきたいと思う。

# 平成28年度 国見町議会行政調査報告書

平成29年2月14日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦和子

## 【調査内容】

1. (1) 秋田県五城目町における人口減・空家活用・起業誘致対策について  
(2) 道の駅視察 特徴や魅力、販売品等について

・道の駅五城目 ・道の駅ことおか ・道の駅しょうわ ・道の駅てんのう  
・道の駅あきた港

## 2. 講師

秋田県五城目町まちづくり課 澤田石清樹課長 柴田浩之係長

## 3. 内容

- (1) 秋田県五城目町における人口減・空家活用・起業誘致対策について

柴田係長より五城目町の現在までの取り組みやしぐみについて説明を受けた。

大手企業誘致は難しくなり、「視点を変え身の丈に合った雇用創出のあり方を考えることにした」と「地方議会人」にあったが、視点を変える判断やタイミングが功を奏した例だろう。質疑応答でも、自信のある答弁が印象的だった。

その後、140年の歴史があり、建設から12年目で閉校となった馬場目小学校を利用した「地域活性化支援センター」に移動。センターは木の香りと温もりを感じる開放感のある施設で、教室を利用者が使い勝手良く使用していた。

役場での説明や質疑応答は予定時間をオーバー、「地域活性化支援センター」においても予定時間を超過しての視察となり、大変有意義であった。

- (2) 道の駅視察 特に説明はお願いせず5店舗の特徴や商品について視察

・道の駅五城目（五城目町） ・道の駅ことおか（三種町）  
・道の駅しょうわ（潟上市昭和） ・道の駅てんのう（潟上市天王）  
・道の駅あきた港（秋田市）

## 【感想】

- (1) 秋田県五城目町

「今後、シェアビレッジの在り方に、全国から注目されていくと思いますが、シェアビレッジの立ち上げにアドバイスされるとしたらどんなことですか？」と質問したら、澤田石課長より「チャレンジです、チャレンジをしていくことです」と役場職員とは思えない素晴らしい言葉が返ってきた。

国見町は交通網に恵まれており、人口が減り、高齢者が人口の4割を占めていても危機感が薄いと思う。対岸の火事ではないのだという状況を住民1人1人が認識しなければならぬと思う。

国見町も守りではなく、チャレンジ精神を持った職員が多く存在する事に期待をしたい。

## (2) 道の駅視察

- ・道の駅五城目 特に特徴もなく、あまり参考にはならなかった。
- ・道の駅ことおか 女性の大好きな試食が多く準備されていた。商品も漬物や佃煮をはじめ個人で出店している方が多いように感じた。価格が商品に貼り付けてあったのでお土産には不向きに思った。
- ・道の駅しょうわ おしゃれなガラス張りの鑑賞温室があり驚いた。潟上市昭和地区は「花の町」と言われ、農家で栽培された草花が販売されている。9日は「真冬の花の祭典」が開催中であり、広い店内の約6割はシンビジュウムやクリスマスローズといった鉢花が占めており、花好きにはたまらない魅力ある道の駅であろうと思った。また商品も見やすく、陳列にも気配りを感じた。しかし、残念なことに規模からいってトイレは少なく週末は混雑が予想されると思う。
- ・道の駅てんのう 展望塔や温泉、公園が併設されており、1日いても飽きない施設と感じた。販売所は分かれており地元住民でなければわかりづらい施設でもあった。
- ・道の駅あきた港 平成6年4月にオープンしたポートタワー・セリオンの地上100mの展望室からの眺めは絶景だった。6,272枚の強化ガラスの建物は、都会的で観光客には魅力ある場所になっていると思う。道の駅は平成22年7月に「道の駅あきた港」としてオープン。期待して行きましたが、店内や商品に、特徴もなく、魅力も感じなかった。平日であり住宅地から離れているからか、買い物客は少なく食事のお店も工事中のため利用できなかったのが残念だった。

視察した道の駅で取り扱っている商品は殆んど同じだった。これは道の駅国見「あつかしの郷」にも言えることで、周辺の直売所と販売する商品は8割方同じであると思う。付加価値を付け特徴や魅力をどうアピールしていくかであると思った。店員に松浦常雄議員が歴史について質問したら「この町、出身じゃないのでわかりません」との返事、道の駅国見「あつかしの郷」は観光の拠点でもあるので、従業員にはこのような事のないよう準備・指導をお願いしたい。

集客の一つにトイレは見逃せない条件であると思う。道の駅国見「あつかしの郷」は女性用トイレに「パウダールーム」が設置されるが、女性へのアピールとして素晴らしい着眼だと思う。

今回の視察で公園やスポーツ広場を併設している道の駅もあった。道の駅国見「あつかしの郷」も年間を通して集客できる魅力ある道の駅を目指し、将来を見通した道の駅周辺整備計画を進めていただきたいと強く思った。

以上